

ウェブサイトでのご報告

当社グループのCSRの取り組みに関する詳しい情報は、当社のホームページのCSRサイトでご紹介します。

ホームページのCSRサイト

<http://www.fujikura.co.jp/csr/index.html>

CSR報告書2013 (HTML版)



Annual Report 2013



フジクラグループ CSR報告書 2013

Corporate Social Responsibility Report
ダイジェスト版



創業の記念樹・珊瑚樹
フジクラと共に130年
今も私たちは大切にしています



この印刷物で使用している用紙は、森を元気にするために間伐した木材の有効活用に役立っています。

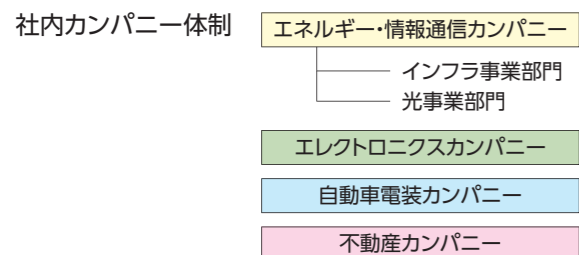
トップメッセージ	2	組織統治と人権・労働慣行	10
事業活動の概要	3	公正な事業慣行と消費者課題	11
特集・ステークホルダー・ダイアログ		環境活動推進体制・環境管理活動指針	12
「期待される環境経営に向けて」	4	環境配慮型製品	14
CSRの重点的な活動	8	コミュニティへの参画及びコミュニティの発展	15

グローバルに変化する事業環境、
私たちは機構改革・事業構造改革で
「15中期」の目標達成に向け加速します



2012年度、私たちフジクラグループは、前年に起きたタイ国洪水被災からの復旧・復興、それに加えて二度と被災しないための幾重もの対策に全力で取り組みました。同時に私たちは、エレクトロニクス分野のグローバルな顧客の信頼回復と新たな期待に応えることにも全力を尽くしました。配線基板のFPCやコネクタなどエレクトロニクス事業は、当社グループの重要な事業の柱の一つです。顧客とのしっかりとした信頼関係を取り戻すには今少し時間を要しますが、この2013年度も引き続き、私たちフジクラグループの全部門が一体となって、顧客の信頼回復と事業の復興、さらなる事業の発展に向け鋭意進めてまいります。また、その他の製造事業に関しましては、電力や通信といった国内インフラ市場が成熟しマーケットは縮小しています。私たちは、このような事業環境の変化に国内の体制を合わせると共に新興国を中心に旺盛な海外インフラ市場へのリソースのシフトを進めています。

2013年4月、当社グループは、このような事業環境の変化にグループとして確実に着実に対応するための「機構改革・事業構造改革」をスタートしました。この改革では、従来の事業部門を4つの「社内カンパニー」へと再編し、各カンパニーには製造拠点・販売拠点・国内外のグループ会社も組み入れました。カンパニー長の明確な事業責任の下で、各カンパニーは顧客ニーズへの迅速な対応やニーズの先取り等を行なうと共に、グループ全体としての効率化を図ります。私たちは、この改革を基軸として達成すべき「15中期」の目標に向けたグローバル戦略を一段と加速してまいります。



私たちフジクラグループは、グループの経営理念MV CVをベースに“人にやさしい、地球環境にもやさしい”企業活動を通じて、「サステナビリティ社会の実現と私たちの継続的な発展の両方を実現させていくこと」が企業としての社会的責任(CSR)であると考えています。2012年度、私たちは2015年度を最終年度とする25項目の「CSR重点方策(Ⅱ)」の取り組みに加えて、CSRの新たな取り組みも行ないました。その新たな取り組みから幾つかをご紹介します。先ず一つ目は、「第1回 ステークホルダーダイアログ」です。社会の声をCSR経営、また環境経営に活かすために学識者、専門家、顧客のそれぞれの立場からご提言を頂きました。二つ目は、生物多様性確保の取り組みです。私たちが東京都心に創設した「フジクラ 木場千年の森」で「第1回 ビオトープ説明会」を開催しました。来場された多くの皆様に多様な生きものたちを護る私たちの活動へのご理解を頂きました。また三つ目は、安全衛生活動の面でメンタルヘルス等に加えて当社が開発し運用を始めた「健康増進プログラム」の運用です。その他では、パートナーとの連携を進める紛争鉱物、グループ事業継続計画(BCP)等々です。私たちは、社員一人ひとりが高い目標と強い意志を持ち、社会に対する責任ある取り組みを進めて、“お客様に感謝され、社会からは高く評価される企業グループ”を目指して、これからも積極的な取り組みを進めてまいります。皆様には、当社グループへのより一層のご理解と今後とも変わらぬご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

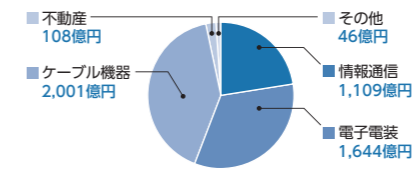
株式会社フジクラ
取締役社長 長 浩 洋 一

事業活動の概要 (2012年度 連結)

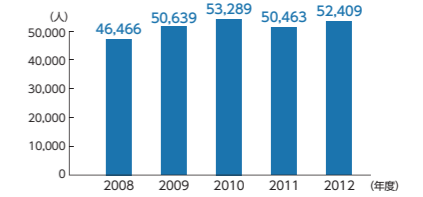
(億円)

売上高	4,911
営業利益	65
経常利益	13
当期純利益	30

セグメント別売上高(連結)



従業員数の推移(連結)



「社会」と「産業」と「私たち」とのつながり

■事業の内容

エネルギー・情報通信事業

次世代のブロードバンドを実現する各種の光通信関連製品をお届けしています

急速な進歩と拡大を続けるインターネットの世界。より速く、高品質で大容量の“つなぐ”を求めて、ネットワークはブロードバンド化し、NGN(次世代基盤ネットワーク)に進化しています。そのバックボーンを支える光ファイバの開発・製造技術で当社グループは常に世界トップレベルを走り続けています。さらに、光ファイバを極低損失で接続する光ファイバ融着接続機では、不動の“世界No. 1”です。



【利用分野】

- 高度情報通信ネットワーク ●次世代基盤ネットワーク(NGN)
- ファイバ・ツー・ザ・ホーム(FTTH) ●LAN、通信機器 など

地球環境に配慮したグローバルな電力インフラのトップランナーとして貢献しています

社会の基盤を支える電力エネルギーの安定供給に貢献することは、創業以来の私たちの原点です。超高压500kVケーブル・架空送電線から汎用低圧ケーブル・産業用ケーブルまで、電力インフラに必要な不可欠な製品をグローバルにお届けする当社グループは、世界のトップランナーとして高い評価をいただいています。



【利用分野】

- ビル・工場の電力・制御 ●発電所～家庭までの送電線ネットワーク
- 産業機器・エレベータ ●船舶・鉄道・道路 など

エレクトロニクス事業

進化を続けるエレクトロニクス製品の繊細な“神経”をトータルに提供しています

小型・高集積化するエレクトロニクス製品にとって、プリント回路や電子ワイヤ、コネクタなどの電子部品は繊細な“神経”にあたります。当社グループは、この分野でも長年蓄積した技術力を発揮し、スマートフォンやデジタルカメラなどの最先端機器に小型・軽量化に最適なFPC(フレキシブルプリント配線板)をはじめ、多様な電子部品・モジュールをトータルにご提供するワンストップソリューションを実現しています。



【利用分野】

- 携帯電話 ●ノートPC ●デジタルカメラ ●家電製品
- 医療機器 など

自動車電装事業

グローバルに発展する自動車産業、トータルな配線システムで車の進化を加速します

グローバルに発展を続ける自動車産業。電子情報化が進むカーエレクトロニクスの世界で自動車の安全、安心、快適を支えているのは自動車用ワイヤハーネスです。私たちは、自動車用ワイヤハーネス、車内LAN、シートセンサ、環境対応で需要増が見込まれる電気自動車用給電コネクタなど、トータルな配線システムで車の進化を加速させています。



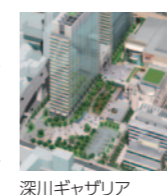
【利用分野】

- 自動車 ●電気自動車 ●車内LAN ●衝突防止装置 など

その他事業

不動産事業

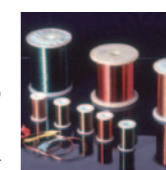
旧深川工場跡地の再開発事業でオフィス・ショッピング・レストランなど、人々が集い憩う街ができました。



深川ギャザリア

巻線・コイル

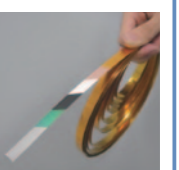
電気機器、電子機器、通信機器などに使われるモーター、変圧コイルなどに広く使われています。



巻線・コイル

研究開発

- 超電導線材・コイル
- 色素増感太陽電池
- 次世代光ファイバ
- ファイバレーザ



超電導線材

期待される環境経営に向けて

私たちが、グローバルに事業を進める上でさまざまな環境課題への取り組みが求められています。これからの環境経営がどうあるべきかをステークホルダーの皆様から幅広いご意見ご提言をいただき、今後の活動に役立てることを目的にフジクラグループとして最初となるステークホルダー・ダイアログを開催しました。

開催日：2012年12月11日(火)
会場：株式会社フジクラ 本社
見学：ピオトープ・ガーデン「フジクラ 木場千年の森」

ダイアログを進める4つのサブテーマ

- テーマ①
地域コミュニティに必要とされるような環境経営
- テーマ②
グローバル化で世界が期待する環境への取り組み
- テーマ③
社員・家族が参画できる環境活動
- テーマ④
社会やお客様が求める当社グループの環境経営



【ご参加いただきましたメンバー】



東京工業大学 名誉教授
公益財団法人 高柳記念財団 理事長

末松 安晴様



みずほ情報総研株式会社
環境エネルギー第2部
チーフコンサルタント

村上 智美様



日本電信電話株式会社
環境推進室 担当部長

櫻井 義人様



取締役専務執行役員・環境部門担当

加藤 隆昌



品質環境管理部長

宮田 裕之



品質環境管理部グループ長

前田 和則



佐倉事業所長

高橋 浩一

【当社参加者】

地域コミュニティに必要とされる環境経営について

●村上 [ファシリテーター]

荒川流域の生態系を意識して作られた「フジクラ 木場千年の森」(以下、千年の森)は創設から2年とお聞きしましたが、思っていたより豊かな自然との印象でした。この「千年の森」にもかかわらず、ダイアログの最初は、「地域コミュニティに必要とされるような環境経営とは」のテーマで皆様からご意見をお伺いしたいと思っています。

●櫻井

NTTグループは、フジクラと同じ時期の1991年に「NTT地球環境憲章」を定めました。それから20年程たった2010年には基本方針の中に「生物多様性の保全」を加えた上で、2020年度に向けた新たなビジョン「THE GREEN VISION 2020」を制定しました。そのビジョンを通し、地域に密着し地域の皆様にご理解いただけるような環境活動が大切だと考えております。具体的な例としては、グループ会社のNTTファシリテーズが都市化によるヒートアイランド現象を避けるためにICT(情報通信技術)を使い建物の屋上や空きスペースにサツマイモを植えています。始めるに当たっては、20~30種類の植物の中から蒸散作用に優れかつ虫にも強いサツマイモを選び、水気耕栽培システム「グリーンポテト」と商品名をつけ、今ではNTTグループ全体で展開しています。サツマイモの他にもゴーヤやカボチャなども作っており、秋には収穫祭を開き、テナントの皆様との地域コミュニティ醸成の場としております。

●村上

ICTという自社の技術を活用し、地域活性化に取り組まれているのはNTTグループならではのですね。

●末松

都心に自然を創られたのには驚きました。これからも維持してほしいと思います。ところで、フジクラという会社は、極めて高い、トップレベルの技術力を持っている会社です。光ファイバや光関連製品、電力ケーブルなどでは世界有数の企業であることを、近くにお住まいになっていても意外とご存じないのではないのでしょうか。特に、40年程前の光ファイバの開拓時、フジクラは、当時の電電公社と一緒に世界最小の伝送ロスの光ファイバを作られたことなどを何らかの形で小学校を含め地域の方々にもご紹介していただきたいですね。今、日本では科学技術離れが進み、科学に興味を持たない子供が増えている状況です。立派なショールームもありますから現物を見せながらご理解をいただくのが良いと思います。話は脱線するかも知れませんが、フジクラは設立時期から素晴らしい会社です。大正時代の1919年に藤倉学園をつくられて以来、大島と多摩で知的障がいの子供達への支援を続けて来られていますし、研究者に研究資金を助成するフジクラ財団を戦前よりつくられている。さらに1965年頃、フジクラ育英会を作り次の時代を担う若者達を育てるために学資の支援を行なってこられた。これらのことが都心にこれだけの自然を誇る「千年の森」を創ることに結びついているのではないのでしょうか。フジクラには、そういう企業文化が息づいているのですね。

●村上

「B to B」企業の製品ですから、地域の方やお子様にはフジクラという会社があるとはわかっていても、その技術力が世界を支えているということも含めて具体的に伝えていかないと、理解いただくのは難しいかもしれませんね。あわせて、フジクラの戦前から続く素晴らしい企業文化の延長線上に「千年の森」があるとするなら、これらをフジクラの事業活動や企業文化の中でどのように位置付けるか明確にすることで地域の方や社員にもその意義が浸透しやすくなるのではないのでしょうか。たとえば、社員の中にピオ

トープの専門家を育てられ、その方が四季を通じての勉強会などで直接地域の方々と触れ合い、フジクラ自身の言葉でフジクラがなぜ「千年の森」を創ったかなどが伝えられていくと「千年の森」は、その存在意義、またその価値も増すと思います。

●加藤

私もそのように思います。「千年の森」を創ると自然一辺倒になりがちです。村上様のお話のように「千年の森」をうまく活用したいと思います。末松様からは、フジクラの企業としての歴史と結びつけて地域の方に科学技術と併せてご理解いただくと私たちをもっと身近に感じていただけるのではないかと素晴らしいご提言をいただき感じ入っております。

グローバル化で世界が期待する環境への取り組みについて

●櫻井

NTTグループは、先頃「新たな中期経営戦略」を発表し、グローバル・クラウドサービスを事業の基軸としてグローバル化がより重要なものとなっております。このような海外展開の中でもNTTコミュニケーションズやNTTドコモが海外での事業展開で植樹など環境への取り組みを進めております。最新技術をお持ちのフジク



ラは、それぞれの国や地域の特徴や規制を踏まえつつ、環境配慮型の製品やテクノロジーでリードされていくと良いと思います。話がそれるかもしれませんが、グループ会社のNTTファシリティーズのBCP(事業継続計画)の事例をご紹介しますと、「私たちは100年間BCPをやってきました、私たちは災害に対しても頑張れるんです」のメッセージを伝えるのに「100年BCP」のネーミングやブランド、ロゴデザインを作りました。フジクラもすばらしい「千年の森」を見た方や聞いた方が、「あれはフジクラだったんだ」となるブランドのネーミングをされてPRをされてはいかがでしょうか。

●末松

フジクラが世界に85以上の拠点をお持ちだということは、その高い技術力が認められて世界が必要としていることの現れだと思います。フジクラは、NTTとの連携で、世界で初めて光ファイバ通信を実証しました。それまで太い銅のケーブルだったものが細さ

1/3ミリ程、髪の毛ほどの線で済むということは、環境負荷の少ない材料が使えるということであり、このことが世界に与えた影響は抜群のものがありました。大量の情報伝送が可能になり、テレビ会議や携帯電話などで人が移動しなくても済むようになった。現在行っている超電導などの最先端の研究開発も、環境配慮型社会の実現を進めるものとなる。その施工性、保守性で世界をリードする光ファイバ融着接続機※も絶え間ない研究の賜物です。こうしたことを中学生に

もわかるようなわかりやすい言葉で伝えていただきたいですね。(※光ファイバ融着接続機:直径10ミクロンの光ファイバ十数本を簡易かつ低い伝送損失で接続できる技術)

●加藤

その通りだと思います。最近の事例で申し上げますと、自動車用電線の工場を南米のパラグアイに作りました。パラグアイでは外資系で工業用生産品を作る企業は初めてです。「私たちは、社会の環境をより良くしたり、通信で人の移動を減らすことにも貢献する製品群を持った会社なんです」と伝えることでパラグアイの人たちがより身近に感じていただけたと思います。情報発信をすべき地域はたくさんあるのだと思いました。

●村上

フジクラは光ファイバなどの製品や技術で、通信や電力インフラのなかった国や地域の発展の重要な部分を担っておられます。それだけでもCSR的には重要な責任・役割を果たされていると思います。今後、たとえば製品それぞれの環境効率(環境性能)がどれだけ向上しましたというだけでなく、フジクラ製品が社会にどれだけ利用され、社会全体でどれだけの環境負荷低減に貢献しているかを具体的な数字で表現できるようになれば、投資家やお客様

をはじめとするステークホルダーに意味のある重要な訴求になりますし、フジクラの本業での強みがより理解しやすくなると思います。「お客様に感謝され、社会からは高く評価される企業グループ」になるためにも情報発信は重要ですね。

社員・家族が参画できる環境活動について

●高橋

佐倉事業所(千葉県)は、国内の事業所では一番大きく、47万7千㎡あります。工業団地にありますので20%は緑地で残さなければなりません。そのスペースに木を植えて緑地にするか、社員の健康対策に使うかなどいろいろな使い方ができると考えています。現在、社員研修の一環として、事業所内にある自然を「みんなはどう使いたいかな」などの意見を集めています。将来的には社員と地域の方とがコミュニケーションを図り、連携へとつなげていければと思います。それもお金をかけずにやりたいと考えています。

●櫻井

NTTグループは、社員数が20万人以上ととても多い企業です。社員と共にその家族やOB、地域の方も一緒に参加できる「Green with Team NTT」があり、地域の環境保護や地域貢献活動を広く実施しています。その活動をご紹介しますと、「環境グリーン作戦」では11万人以上が参加し、ゴミ拾いやペットボトルのキャップを3千200万個集めたり、子供たちの環境教育を含めた植樹や森林整備を行っていて、これまでに全国約50ヶ所に総面積約200ヘクタールで行ってきました。その他にも富士山や地域の河川の清掃活動等を行っています。フジクラも時間をかけて進めていかれたらいいかなと思います。このような社員とその家族と一緒に活動することには2つの意味があると思います。ひとつは、家族の調和です。子供は親の姿を見て育つものです。自分の親がどんな仕事をしているかを知ることによって家族の信頼や理解が深まると思います。もうひとつは、多くの家族が地域の拠点に集まることで、そこを中心に広がりが出来あがることです。「千年の森」などで社員とその家族が子どもの頃から参加して環境への意識や活動が根付くことは重要ではないでしょうか。

●末松

「千年の森」の見学の途中の公道で、研究仲間に著名なフジクラのOBにお会いしました。OBを含めてフジクラを好きな職員がたくさんおられるのだなと感じています。そこで思うのですが、社員もOBも一緒に集まれるような場所があると良いですね。「千年の森」もそうですが、佐倉事業所の中に広い場所があるのであれば、みんなで集まり公園や農園を作り、そこで年に1~2回、家族や子供も含めてみんなで集まり、植樹や農作物を作って食べるとかそんな楽しい場所があると良いですね。しかもお金をかけないで自分たちでやれるのが良いのではないのでしょうか。最近では大学でも創立記念日などに卒業生に来ていただく「ホームカミングデー」があります。同様に事業所を使って家族ぐるみで集まれるのであれば、それはすごいことです。その時に工場も見てもらい、子供たちに自分の親は何をやっているのかを理解していただくのは良いと思います。

●村上

貴社が「社会から高く評価され、みんなに愛される企業グループ



プを目指す」という意味では、先程からお話の出ている家族を含めた取り組みも必要ですね。「千年の森」をフラッグシップ(中心)に各事業所などで、社員だけでなく家族や地域に企業や事業の説明などのコミュニケーション機会をいろいろとつくっていかれると「社会」の声に耳を傾けるという企業の姿勢が出来ていく素地にもなると思います。「千年の森」はそのきっかけとなるような気がします。

社会やお客様が求める当社グループの環境経営について

●櫻井

お話に出た情報発信やコミュニケーションといったキーワードですが、NTTグループでも重要だと考えております。NTTグループは、CSRコミュニケーション活動の一環として、12年間に亘りその年の重要なCSRテーマで、有識者をお招きしてパネルディスカッションなど最新情報を満載したシンポジウムを開催しておりま

ダイアログを終えて

取締役専務執行役員・環境部門担当
加藤 隆昌



当社グループの第1回目となるステークホルダー・ダイアログでは限られた時間でございましたが熱心にご討議をいただき誠にありがとうございました。「社会」を代表して学識者、お客様、専門家の皆様にそれぞれのお立場から多くのご意見ご提言をいただきました。

グループ経営の最重要課題の一つとして取り組みを進める「環境経営」ですが、ご高評の言葉が少し多かったかなと思うところもありますが、ご指摘のようにそれなりに自信をもって事業活動と併せて、総合的で積極的な情報発信をグローバルに行うことで、地域を含めた「社会」の皆様へ、当社グループをより良く、より親しみをもってご理解をいただけたとの認識をいたしました。

また、そのことが社員の啓発となり、私たちの中期経営目標の一つである「お客様に感謝され、社会からは高く評価されるフジクラグループ」へと繋がっていくものと確信いたします。皆様へいただきましたご意見ご提言は、真摯に受け止め、一つひとつを確実に進めて参りたいと考えております。

ただ、その中には時間を要するもの、また一段の企業努力を要するテーマもありますので、まずは「出来ることから」を旨に確実なステップを踏んでグループのリーダーシップに努め、環境経営のより一層の充実を図って参りたいと思います。

す。この2012年度は「グリーン調達への取り組みと情報開示」のテーマで開催しました。このシンポジウムを通じてNTTグループのCSRの取り組みの充実と情報発信、また情報の共有化も行なっています。ご参考にされてはいかがでしょうか。

●末松

フジクラは、大きな企業グループです。普通の人にフジクラと言えば光ファイバではなくゴルフのドライバーを思い浮かべます。グループにはゴルフのドライバーもある、光ファイバもある、社会貢献もある、最先端の研究開発もある、そして「千年の森」と、それらを全部含んだ総合的な情報発信が必要ではないかと思えます。それによって社会の人は、フジクラはすばらしいことをやっている会社だと理解ができ、社会に必要な企業なんだと思ってもらえるようになるのではないのでしょうか。

●村上

環境対応を含めたフジクラ事業の総体をフジクラの経営としての文脈の中できちん整理して社会に伝えていくことで、フジクラのような「B to B」企業も理解され易くなるのではないかと、私はそう感じました。これにより、フジクラの社会における存在意義がより見えてくるように思いますし、フジクラに対する評価は変わってくるのではないのでしょうか。貴社は今回初めて、ステークホルダー・ダイアログを開催されました。このこと自体が新たなステップへ進んでおられることの現われです。今後もこのように様々なステークホルダーとコミュニケーションされていければ、きっと社会の評価も付いてくると思います。本日の意見や提言が今後の活動のご参考となれば、私たちもうれしく存じます。

ご提言の要約

【テーマ①について】

- 歴史的な功績などと共に製品や研究開発そのものが環境にやさしいということを地域の方々に理解される取り組みを行う
- 「フジクラ 木場千年の森」を事業活動や企業文化の中で位置付けを明確にし、地域や社員にもその意義がわかり易くする
- 社員の中に「フジクラ 木場千年の森」のわかる専門的な人を養成し、地域の方と直接触れ合う機会を設け、千年の森の存在意義などをフジクラ自身の言葉で伝える

【テーマ②について】

- フジクラの最新技術を使った製品・テクノロジーをその国や地域に適したものと出す
- 途上国や新興国などでは環境規制のレベル、法整備の状況も違うがそれに甘んじることなく積極的な環境への取り組みを進める

【テーマ③について】

- 社員と家族、OB、地域の方も参加できる活動を、少しずつ時間をかけて進める
- 家族や地域への説明やコミュニケーションの機会をいろいろな形で作り、社会の声に耳を傾ける企業姿勢の素地を作る

【テーマ④について】

- グループ全体を総合的に捉えて情報発信を行う
- 「B to B」企業が理解され易くするためフジクラは事業の総体を、これまでの取り組みを整理して周囲の社会に見せていく

CSRの重点的な活動

2012年度の重点的な活動と評価

当社グループは、グループで定めたマテリアリティ(4つの重点分野)をベースにステークホルダーの関心と経営に与える影響に基づく「マテリアリティ・マトリックス」による課題の抽出、また第三者意見の専門家の意見やステークホルダーのさまざまな視点をベースにして「15中期」のCSRの目標を設定しました。その目標は、

2015年度を最終年度として実現するグループ像を「CSRの先進モデル企業として社会に紹介されている」と決めました。その目標を実現するために25項目の重点施策を策定し、その施策を具体的に進めるための年度毎の目標計画を設定し、PDCAを廻しながら日々活動を進めています。

2012年度 目標・実績・評価

[評価] ●…目標通り進んだ ▲…目標より遅れた ×…目標未達

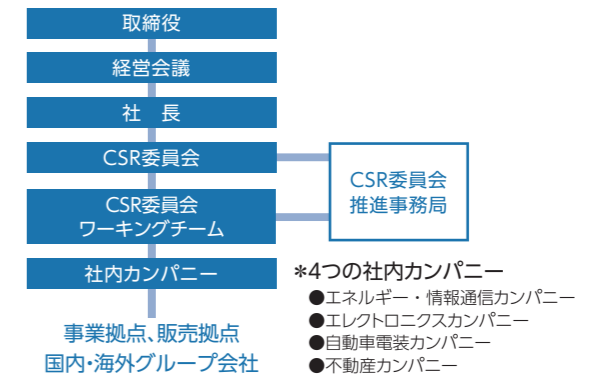
ISO26000 中核主題	2012年度					2013年度	
	重点分野	重点方策	目標	活動実績	評価	計画	
1. 組織統治	経営理念	(1)経営理念MVCVの実現活動	1.階層別研修 2.「1000の模範行動」キャンペーン 3.MVCV活動調査	・社員研修実施 ・活動事例コンテスト開催 ・優秀職場表彰	●	・MVCV実現活動の推進	
	CSRマネジメント	(2)CSRキャンペーン活動強化	1.CSRキャンペーン件数 目標:15件 2.社員向け情報発信 目標:100回 3.情報誌「CSRワールド」発行 目標:12回	・キャンペーン実施件数:21件 ・社内イントラで情報発信:106件 ・国内海外拠点へ情報紙発信:12回	●	・新キャンペーンを1つ増やす	
		(3)ステークホルダーダイアログを実施	1.ステークホルダーダイアログ実施	・「期待される環境経営」で開催(2013/12/11)	●	・ステークホルダーダイアログの実施	
		(4)CSR報告書の第三者評価	1.第三者評価検討と事例調査 目標:5件	・事例調査:5件	●	・CSR報告書の第三者評価検討	
		(5)ISO26000の活用	1.CSR報告書の分類基準に導入 2.ISO26000対照表作成の検討	・報告書、CSRサイトの基準に導入済み ・対照表作成しCSR報告書に掲載 ・CSR報告書WEB版(150頁相当、和・英) ・社外CSRサイトを全面改定・充実	●	・ISO26000の活用と事例の分析	
		(6)CSR情報の公表充実	1.CSR報告書WEB版の充実 2.社外向けCSRサイトの充実	・社外ホームページのCSRサイト充実 ・CSR報告書WEB版充実	●	・社外ホームページのCSRサイト充実	
	情報開示とコミュニケーション	(7)外部とのコミュニケーション充実	1.ステークホルダーへの対応 2.地域へ「千年の森」情報発信 目標:50回	・学校等の自然学習、いも堀り体験 ・「千年の森」情報発信:68回	●	・ダイアログの開催 ・提言への対応	
	(コンプライアンス)						
	2. 人権 3. 労働慣行	安全で健康的な労働環境形成	(8)OSHMS(労働安全衛生マネジメントシステム)の定着とグループ内展開	1.OSHMSの定着とグループ内展開	・グループ安全会議で安全責任者へ説明	●	・OSHMSのグループ各社へ展開
		ダイバーシティ(機会均等の徹底)	(9)メンタルヘルスマネジメント体制	1.ストレス・チェックの実施・分析 2.ストレス耐性テスト実施、個別ヒアリング	・全社員のストレス・チェック実施 ・対象者へのストレス耐性テストと上司ヘフィードバック	●	・アクション・プラン作成 ・ストレスチェックの継続 ・教育研修の実施
(10)グローバル人材の人事管理体制			1.処遇制度検討 2.候補者の選定、集合研修の検討・実施 3.国際間異動のガイドライン策定	・検討継続 ・候補者をノミネートし研修の企画作成 ・駐在員規程見直し実施	▲	・グローバル人材の人事管理体制	
多様な人材活用		(11)障がい者雇用拡大	1.目標1.8%以上へ採用活動の継続 2.国内グループ会社の雇用拡大	・合同面接会参加、内定者なし ・3月末で1.82%、重度1名採用	●	・障がい者雇用拡大 ・障がい者雇用環境整備	
		(12)女性の管理職比率	1.グループ全体の管理職比率調査 2.単体の比率アップ、採用活動の継続	・検討継続 ・企画専門職4名採用、業務専門職へ変更1名	▲	・女性の管理職比率アップの推進	
ワークライフバランス		(13)男性の育児休暇取得(単体)定着	1.定着への啓蒙活動の継続	・取得者希望者なし ・労働組合と連携して活動の継続・強化	▲	・男性の育児休暇取得定着	
		(14)多様な勤務形態の検討	1.勤務形態の意識調査の分析 2.実現性や実効性等の検討	・社員意識調査分析で勤務形態検討 ・労働組合と検討会	●	・多様な勤務形態の検討	
4. 環境		環境の負荷低減	(15)~(17)「フジクラ環境管理活動指針4版(2011-2015)」環境編に掲載				
5. 公正な事業慣行		リスクマネジメント事業継続計画(BCP)	(18)BCP強化とBCMへの展開	1.事業部門BCPの深耕、教育資料更新 2.スタッフ部門のBCM体制維持	・品種別のBCPの見直し、教育訓練 ・グループ災害対策本部訓練実施	●	・教育訓練の実施・BCPの評価・検証 ・品種別、拠点BCPの拡大
		調達活動(調達先のCSR対応)	(19)情報セキュリティマネジメントの検討[ISMS準拠]	1.ISMSの現状・内容調査 2.ギャップ分析、導入の検討	・世間の取得状況等調査済み ・ISMSの実施項目洗い出し済 ・ISMS認証の期間、費用、差異まとめ	●	・情報セキュリティマネジメントの検討[ISMS準拠]
	(20)CSRサプライチェーン管理		1.グループ調達方針の教育	・グループ及び取引先へ実施	●	・CSRサプライチェーン管理	
6. 消費者課題	品質管理・品質保証	(21)顧客満足(CS)の強化	1.顧客品質情報のソフト作成と共有化	・2012年5月運用開始、マニュアル作成と説明会	●	・CSの強化	
7. コミュニティへの参画及びコミュニティの発展	地域コミュニティとの連携強化	(22)地域コミュニティとの連携強化	1.地域ステークホルダーへの対応 2.地域ステークホルダーとの連携	・地元シネマフェスティバル支援 ・秋田小坂町文化遺産「康楽館」支援 他	●	・地域コミュニティとの連携強化	
		(23)社内ボランティア支援	1.社内のボランティア活動への支援	・「生きもの倶楽部」でHP制作 ・障がい者スポーツ社員を支援 ・タイ国洪水被災で日本語児童書を贈呈	●	・社員ボランティア支援	
		(24)社会貢献基本方針の策定	1.「社会貢献基本方針」の検討	・団体や他社事例の調査・分析	●	・「社会貢献基本方針」の策定	
	社会貢献活動	(25)藤倉学園賛助会の活動拡大	1.啓蒙活動の実施 2.賛助金の拡大キャンペーン	・新入社員がボランティア活動実施 ・賛助会加入促進キャンペーン:2回 ・学園製品即売会:2回	●	・藤倉学園賛助会の活動拡大	

CSRの取り組み

当社グループは、経営理念MVCVのミッション「フジクラグループは、「つなぐ」テクノロジーを通じ顧客の価値創造と社会に貢献する」をCSR活動の基軸として、事業活動を進める上でCSRを重要な柱の一つであると捉えて積極的な取り組みを進めています。

当社グループのCSRマネジメントの体制は「フジクラグループCSR委員会」を中心に4つの社内カンパニーの下で、事業拠点、販売拠点、国内・海外のグループ会社を含めてグループ全体としてグローバルな取り組みを進めています。

フジクラグループCSRマネジメント体制



マテリアリティとその取り組み

当社グループは、2009年に「フジクラグループCSR基本方針」を制定しました。その基本方針にある「4つの重点分野」を「マテリアリティ(重要課題)」と決めました。その4つの重点分野とは、[1. 誠実な企業活動]、[2. 環境への配慮]、[3. 人間の尊重]、[4. 社会との調和]の4項目です。その決定のプロセスは、「CSR基本方針」を制定する過程でステークホルダーのご意見や視点をベースとしたCSR委員会での論議を経て決定しましたが、その根拠は未来に向け企業を取り巻く「社会」が変わっていても当社グループにとってこの

「4つの重点分野」の重要性は変わらない変わってはいけないとの強い意思に基づくものです。以来、当社グループは、マテリアリティをベースとしたCSRの取り組みを進めてきました。その主な取り組みは、4つの重点分野ごとのステークホルダーの特定、「社会的責任の国際規格 ISO26000」との関係の明確化、「マテリアリティ・マトリックス」による課題の抽出とそれに基づく「15中期」のCSR目標設定、その目標実現のための重点施策の策定などです。私たちはこの重点的施策を中心に日々PDCAを廻す活動を行っています。

4つの重点分野	ISO26000中核主題	活動の分野	重点方策(中期・単年)	主なステークホルダー
1. 誠実な企業活動	1. 組織統治	経営理念 CSRマネジメント 情報開示とコミュニケーション コンプライアンス	(1) (2)(3)(4)(5) (6)(7)	・投資家・株主 ・顧客 ・取引先 ・環境・行政 ・社員 ・地域
	5. 公正な事業慣行	リスクマネジメント 事業継続計画(BCP) 調達活動	(19) (18) (20)	
2. 環境への配慮	4. 環境	フジクラ環境管理活動指針4版(2011-2015)	(15)(17) (16)	
3. 人間の尊重	2. 人権 3. 労働慣行	安全で健康的な労働環境形成 ダイバーシティ(機会均等の徹底) 多様な人材活用 ワークライフバランス	(8)(9) (10)(11) (12) (13)(14)	
4. 社会との調和	6. 消費者課題 7. コミュニティへの参画及びコミュニティの発展	品質管理・品質保証 地域コミュニティとの連携強化 社会貢献活動	(21) (22)(23) (24)(25)	

2012年度のCSR重点的な活動の自己評価について

2012年度の「CSR重点方策」25項目の活動実績に基づく自己評価を行なった結果は、8頁の表と環境編の13頁の表の通りとなりました。2012年度のCSR活動全体での自己評価は、2015年度を最終年度とする4年計画の初年度の取り組みとしては課題は残すも

の「ほぼ計画通り」と自己評価しました。目標未達のテーマについても改めて取り組み課題が明確に見えており次年度2013年度では目標未達の部分を含めて活動レベルを上げ、CSRへの意識をより高めて、グループ全体での底上げも図っていきます。

自己評価の方法

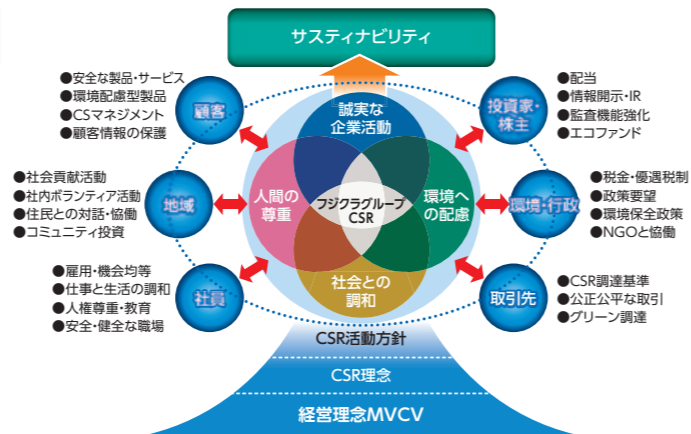
当社グループでは、人事、総務、環境、品質保証などのコーポレートスタッフ部門が主管部門となりグループ横断的にCSRの重点方策への取り組みを行なっています。活動方法は、2015年度を最終年度とする中期目標とそれを具体化する年度計画に沿って活動し、その成果に基づき自己評価を行なってCSR報告書で公表しています。その自己評価の統一性・均一性を保つために3段階で

の評価を行なっています。その自己評価のプロセスは、①主管部門が重点方策テーマ毎に4段階で「自己評価」を行ないます。⇒②20名のCSR委員会委員それぞれによる4段階での「他者評価」を行います。⇒③以上の21回分の評価内容を総合的に分析し主査(担当役員)が最終評価をする、という方法です。

“第3の創業”と経営理念MVCV

私たちに、1885年の創業以来大切に守ってきた“ことだま”と社風があります。それは『進取の精神』と『地道に、しぶとく、ひたむきに』の2つの言葉です。2005年の創業120周年を機に、新たな時代に向けたさらなる発展を目指して、私たちは、「第3の創業」を宣言し、創業以来の社風をベースに「つなぐ」テクノロジーを通じて、「顧客価値創造と社会に貢献する」をミッションとした当社グループの経営理念MVCVを策定しました。

経営理念MVCVは、その制定以来、社員の一人ひとりへの浸透活動が続けられてきましたが、5年を経た2010年からは、新たな活動である「1000の模範行動」を開始し、2012年度は、研修制度の中に取り入れるなど個人及びグループとしての活動へとレベルアップを図ることで企業風土改革への取り組みの強化を図りました。



- 社員に対する安全衛生管理および倫理的配慮に関する基準**
- 1 児童労働の禁止および青少年労働の制限
 - 2 強制労働の禁止
 - 3 差別の禁止
 - 4 体罰、虐待、ハラスメントの禁止
 - 5 適正な労働時間管理
 - 6 安全で衛生的な職場環境および健康管理の推進
 - 7 公平で公正な報酬の提供
 - 8 労働者の権利の尊重

当社グループの目指す経営

当社グループの目指す経営は、120有余年の歴史を通じて培われた「ものづくりのDNA」、創業の精神である「進取の精神」、顧客の視点から必ず実行すること、絶対にしてはならないことを明確にし、これを必ず守るという組織風土「クオリティファースト」をベースとしています。その上で「G-FPS(Global Fujikura Production System)」、「ものづくり風土改革」、「CSR」を推進力に、全てのコーポレートスタッフがグループ経営のルールを回して、製造拠点、営業部門、研究開発部門の共創によるエネルギーの一体化を図りながら「情報通信」「エネルギー」「エレクトロニクス」「自動車」の4つの分野の15中期計画ビジョンの実現を目指しています。

社員・家族と共に

人事政策の基本的理念

当社グループは、顧客・社員・社会の三者がWin/Winの関係を構築できるよう、それぞれのニーズを的確に捉え、人事政策・制度に反映していくことを基本的理念として掲げています。

また、当社グループは「フジクラ行動規範」の基本理念に則り、全世界のすべての社員に対して、人権の尊重と差別排除を含め、倫理観に基づいた安全衛生管理および労働環境を保障しています。

安全衛生活動

安全衛生活動

「安全は全ての基本であり、大切な企業基盤である」との安全衛生基本方針に基づき、グループ全体での安全衛生活動を推進しています。

2012年度は、労働災害ゼロを目指し安全文化の継承に重点を置いた活動の展開を図りました。具体的方策としては、①安全衛生教育・訓練の充実 ②危険予知活動の充実 ③機械設備の本質安全

主な活動内容

【大震災に備えて防災訓練】

各事業所では東日本大震災を踏まえた防災訓練を実施しています。事業所はそれぞれロケーションが異なるため、事業所独自に災害を想定し、効果的な避難行動の訓練を実施しています。継続的な訓練が重要ですので今後も取り組みを続けていきます。

【OSHMS*の取り組み】

2009年度より災害リスクのさらなる低減を実現するため、安全衛生活動を組織的、かつ継続的に実施する仕組みとしてOSHMSの導入を検討し、2010年度より運用を開始しています。2010年度には事業所相互による進捗の確認や仕組みの見直し等を実施

化 ④心とからだの健康づくり活動、を中心にトップと全社員が一丸となり安全衛生活動に取り組んだ結果、グループ災害件数は前年比4割減となりました。また、災害リスクのさらなる低減を目指し、2009年度より労働安全衛生マネジメントシステムの構築の検討を行い、2010年度より当社各事業所の安全衛生計画を中心に運用を開始しています。

し、事業所内での浸透を進めてきました。2012年度からグループ全体の取り組みとして展開中です。

*OSHMS：労働安全衛生マネジメントシステム

【健康増進プログラム】

当社は、社員の健康増進及び疾病予防の一環として、これまでの健康づくりの活動をさらに発展させ、当社の開発した「健康増進プログラム」の運用をスタートしました。このプログラムは社員自らが健康状態や疾病リスクを知って自主的に健康維持活動が行なえるものです。

公正な事業慣行

情報セキュリティと事業継続計画(BCP)

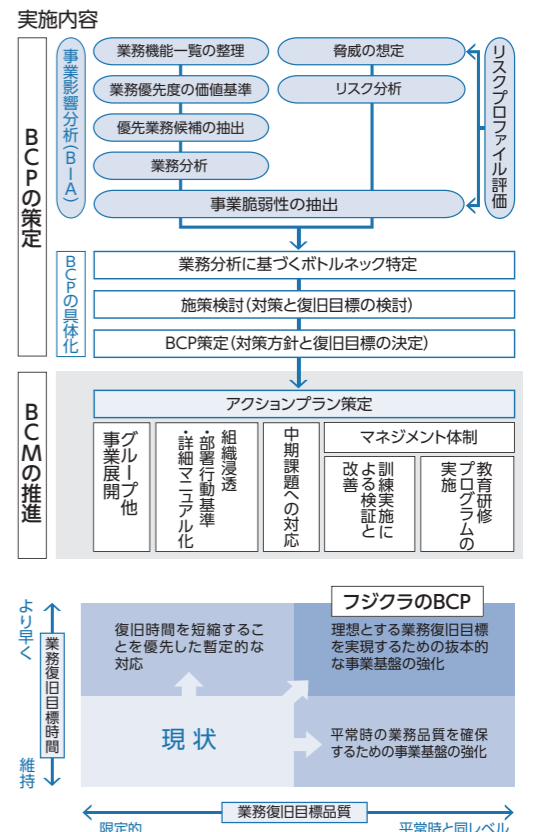
情報セキュリティ

高度情報化社会の進展は、企業活動における情報の重要性和情報システムの活用度を飛躍的に高めています。特に近年、電子情報に対するリスクは増大してきており、セキュリティに対する取り組みは企業活動上の最重要課題の一つであると認識しています。当社は当社グループが取り扱うすべての情報資産を適切に保護するために、2005年に「電子情報のセキュリティ基本規程」を制定しました。これを役員・社員に継続的に周知・徹底し遵守することにより、情報セキュリティに関する社会的責任を果たし、社会から信頼される企業グループを目指しています。

事業継続計画(BCP)

当社は事業リスクを的確に把握し、応用性の高いBCPを策定することで事業基盤の強化に必要な事前対策及び有事体制を整備しています。これにより、市場への安定的製品供給を実現し、顧客等の信頼を獲得しています。

2009年度に対象事業部を選定、その事業部を取り巻くバリューチェーンを具体化し、大規模自然災害発生において被災した場合を想定した事業継続計画(BCP)の検討・策定に取り組みました。パイロット事業部のBCP策定後は順次、他事業部に展開しており、現在4事業部目の策定をしています。本社機能のBCP、および各事業所機能のBCPも策定し、初動対応から事業の復旧を支援する拠点別BCPも展開し、複合的に、想定されるリスクに対応できる体制を整備しています。また、これらの事業を横断したBCPの構築により、復旧時間の短縮、事業基盤の強化を実現し総合的な災害対応能力の向上、顧客等の信頼の確保を実現しています。



消費者課題

品質管理・品質保証

顧客視点の品質管理

当社は全社品質方針「フジクラ クオリティ方針」を掲げて「お客様の視点に立って、お客様の信頼に応える」品質管理を指向しています。当社グループの品質管理活動は製品品質だけに着目するのではなく、さまざまな業務プロセスの質をも対象としています。これは日々の仕事によって、製品を生み出す業務の質が製品品質として作り込まれていくというポリシーです。

2012年度は、2011年度より継続して自己評価方式による品質監査を開始、拠点回答に基づき訪問確認と合わせ、監査基準の統

【フジクラ クオリティ方針】

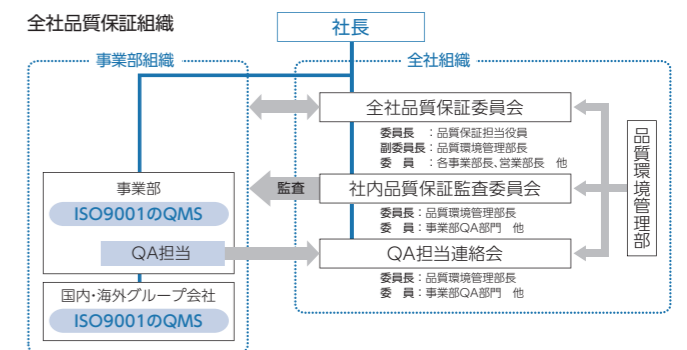
- 顧客の視点に立って
- 顧客の信頼に応える
- 有用で安全な質の高い商品およびソリューションを提供する

調達活動・調達先とのかわり

フジクラグループ調達基本方針

1. 公平公正な取引	公平・公正で自由な競争の原則に基づき、国内外を問わず優良なお取引先を求めます。お取引先の選定は、価格・品質・納期・安定供給力・技術力・信頼性等の観点から公正な評価に基づいて行います。
2. 相互信頼を基盤とした協力関係	信義・誠実の原則を守り、共存共栄の理念のもとに、お取引先との相互協力関係を築く努力をします。
3. 法令、社会規範の遵守	取引に際し各国の諸法規や社会規範を遵守します。また、購入物品に製造、販売の過程で法律や社会規範に対する違反、逸脱がないことを確認して購入します。
4. 機密の厳守	取引で知り得た機密情報は漏洩等がないよう厳重に管理します。また、お取引先の承諾無く第三者へ開示しません。

一化、対象拡大を図りました。また、経営革新の一環としての品質改善部会で、品質状況に関して月次のフォローアップを行なっています。品質は企業の総合力としてとらえ、営業・開発・設計・製造・間接部門が一体となって「お客様の視点に立った」活動を進めています。

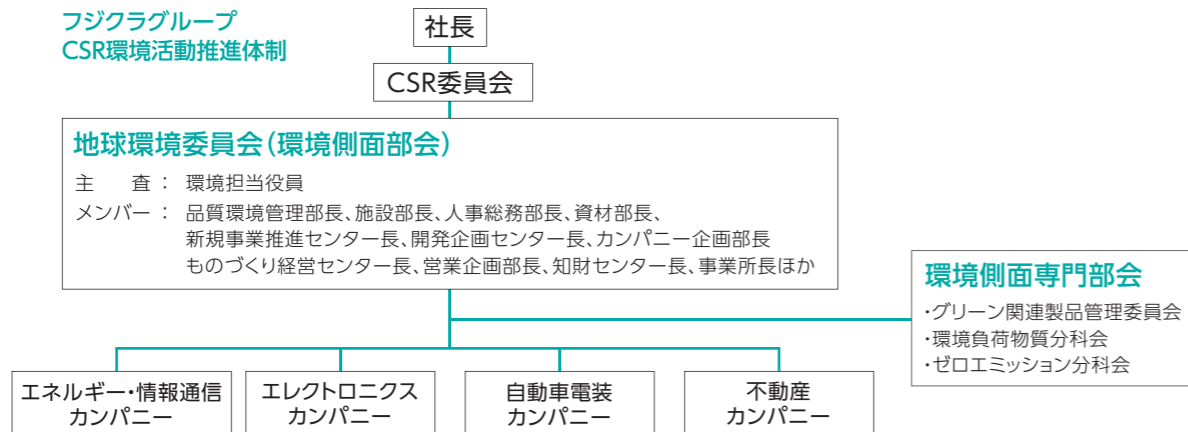


環境活動推進体制・環境管理活動指針

環境活動推進体制

当社の地球環境保護活動について、CSR委員会の地球環境委員会(環境側面部会)が当社グループをグローバルに統括しています。地球環境委員会(環境側面部会)は、環境経営に関する審議決定機関です。部会では、年度・中期目標の策定を行なうとともに、活動推

進状況をモニタリングしています。活動の推進のために、重点テーマには専門部会を設け、施策立案、対策の横展開などのサポートを行い、活動を推進しています。

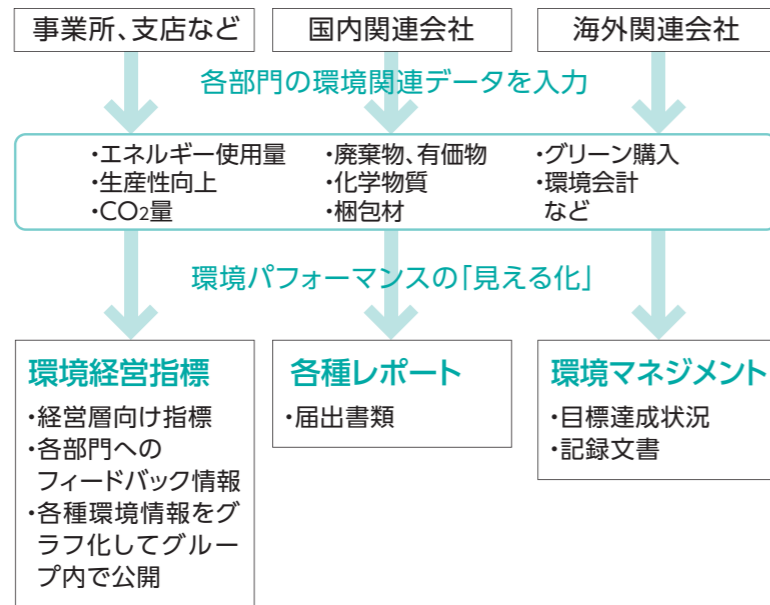


フジクラグループ環境情報収集システム ECO-PASS

当社は環境負荷の低減に取り組む中で、事業活動に使用している化学物質やエネルギー消費量・廃棄物量などの環境関連情報を正確に把握し課題を明らかにして事業活動の改善につなげるため、各工場・事業所に分散している環境データを個別に収集管理しています。2010年度より、グループ環境データ収集管理の効率化を目的と

してシステム化を行いECO-PASSの運用を開始しました。また、収集した情報をグループ内で共有化し分析することにより、更なる環境負荷低減活動を進めるため、負荷状況や低減活動成果の「見える化」を進めています。

フジクラグループ環境情報収集システム ECO-PASS



フジクラグループ環境管理活動指針第4版

2011年度からは2015中期経営計画に基づいて策定した「フジクラ環境管理活動指針4版」による新たな目標を定め活動を推進しています。

[評価] ●…達成 ▲…改善されているが未達 ✕…未達

ISO26000 中核主題	重点分野	環境活動管理指針 第4版 中期目標(2011-2015年度)	2012年度 活動実績	評価
環 境	温暖化防止	CO ₂ 排出量総量削減 国内 2009年度比13%削減 (1990年度比17%削減)	国内生産拠点でのCO ₂ 排出量は2009年度比13%増加。主に電力の排出係数の増大による。	✕
		省エネ：エネルギー原単位改善 毎年 生産性原単位：3.5%以上の改善 オフィス：1.5%以上の改善	エネルギー原単位改善 生産性原単位：前年比2.8%改善 オフィス原単位：前年比2.5%増加	▲
		年平均1%の製品物流に要するエネルギー原単位の改善(国内)	基準年度に対し過去5年間の原単位平均で5%削減	●
	廃棄物ゼロエミッション	国内 完全ゼロエミッション(埋立ゼロ)の達成	国内生産拠点での埋立率は0.48% (前年比0.23%削減)	●
		梱包材使用量の削減 木材：12,000t以上、梱包資材：25t以上 (2009年度レベル以上の削減)	梱包材削減量は前年比5%増加 削減目標を達成した。	●
	省資源&リサイクル	水の使用量の削減(国内)	国内での水使用量は2011年度比5%増加した。	✕
	環境負荷物質削減	主要環境負荷物質取扱量10%以上削減 (2010年度比)	年間1t/年以上の対象物質が2物質増え、 2010年度比、取扱量は57%増加した。	✕
	揮発性有機化合物の 排出削減	継続 管理目標の設定(国内、海外)	2010年度比、大気排出量3%削減した。	●
	環境対応製品拡大	環境配慮型製品の登録件数(製品環境アセスメント実施件数)を毎年60件以上とする。	環境配慮型製品68件登録、目標達成。	●
	汚染予防・グリーン調達	サプライチェーンでの製品含有化学物質管理を推進する。 (グリーン調達及び高懸念物質管理の推進)	REACH規則のSVHC等で新規管理物質の調査を推進した。	●
生物多様性の確保	生物多様性ガイドラインにより目標を設定し、 生物多様性の確保を図る。	ピオトープ「フジクラ 木場千年の森」を中心とした 活動の展開を図った。	●	

2013年4月にフジクラグループ環境管理活動指針を見直しました。

ISO26000 中核主題	重点分野	環境管理活動指針 第4版 新中期目標(2011-2015年度)
環 境	温暖化防止	省エネ：エネルギー原単位改善 国内 生産性原単位：年3.5%以上 オフィス：年1.5%以上の改善 海外 生産性原単位：年1.0%以上 オフィス：年1.0%以上の改善
		国内 製品物流に要するエネルギー原単位を年1%以上改善
		国内・海外 完全ゼロエミッション(埋立ゼロ)の達成
	廃棄物ゼロエミッション 省資源&リサイクル	国内 梱包資材削減量合計で毎年7,000トン以上を継続する 国内 水の使用量の削減
		国内 主要環境負荷物質取扱量2010年度比10%以上削減
	揮発性有機化合物(VOC) の排出削減	国内 主要VOCの大気排出量を2010年度比10%以上削減
	環境配慮型製品の拡大	環境配慮型製品の登録件数(製品環境アセスメント実施件数)を毎年60件以上とする
	汚染予防・グリーン調達	サプライチェーンでの製品含有化学物質管理を推進する (グリーン調達及び高懸念物質管理の推進)
	生物多様性の確保	生物多様性ガイドラインにより目標を設定し、生物多様性の確保を図る

環境配慮型製品の拡大

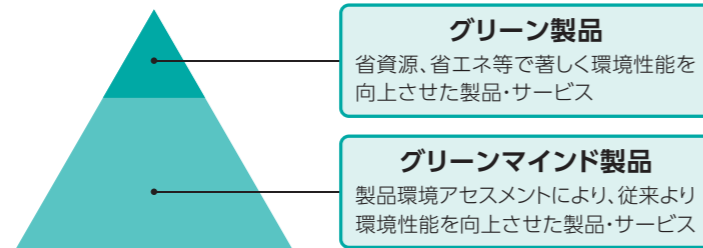
企画・開発・設計の段階で、製品の環境配慮性をライフサイクルにおいて評価する製品環境アセスメントを実施し、環境性能の向上に取り組んでいます。2012年度のグリーンマインド製品登録件数は68件となりました。

グリーンプロジェクトマーク




このマークはグリーン製品に認定されると付与されるマークです。

環境配慮型製品

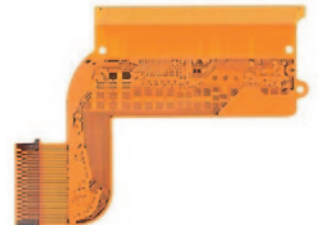


光事業




製品名称：	高密度架空用／引上用SM型光ケーブル
用途：	FTTH光配線架空布設用
環境配慮の説明：	間欠接着型4心光ファイバテープ心線を用い、光ファイバ心線の実装密度を極限まで高め、大幅な細径、軽量化(外径で最大29%、質量で最大52%の低減)を図りました。

エレクトロニクス事業




製品名称：	フレキシブルプリント基板
用途：	電子機器内配線
環境配慮の説明：	RoHS指令禁止物質の不含有はもちろんのこと、ハロゲンフリーにも対応しています。

自動車電装事業



製品名称：	高電圧用シールドケーブル(ASBS)
用途：	電気自動車、ハイブリッド車用高電圧電線
環境配慮の説明：	従来品に比べ、細径、軽量化を図り、外径で10%減、質量で20%減を実現した高電圧用シールドケーブルです。また絶縁材料、被覆材料の材料選定により耐熱性も向上しています。

インフラ事業



製品名称：	エコ電線・ケーブル、鉛フリー電線・ケーブル
用途：	産業用電線、通信ケーブル、計装ケーブル、同軸ケーブルなど
環境配慮の説明：	ノンハロゲンケーブル技術を応用した分別リサイクルが容易なエコ電線をはじめとして、RoHS指令対応の鉛フリー電線・ケーブルなどの環境配慮をしています。

コミュニティへの参画及びコミュニティの発展

社会貢献活動

「藤倉学園」とのかかわり

「藤倉学園」は、90年以上前の1919年6月7日に創業者・藤倉善八の実弟・中内春吉(元監査役)が、知的障がい者・児童のために多額の私財(現在に換算すると約20億円)と伊豆大島の土地4万坪、学園の土地・建物を寄付し、伊豆大島元町に創設されました。現在、伊豆大島と多摩(八王子)にその施設があり、約130人の園生に約100名の職員が24時間体制で教育・厚生に当たっています。



藤倉学園創設者 中内春吉



大島藤倉学園建物



新入社員の一泊ボランティア



藤倉学園製品の即売会

「フジクラ財団」とのかかわり

当社グループは、科学技術分野の研究者への助成活動を続ける「フジクラ財団」を支援しています。公益財団法人「フジクラ財団」は、70年程前の1939年6月に当社2代目社長・松本新太により財団法人「藤倉研究所」として設立されました。その設立資金は、当社初代社長・松本留吉からの寄付金10万円で、それに藤倉電線(現フジクラ)及び藤倉工業(現 藤倉ゴム工業及び藤倉化成)からの寄

付金110万円が加わりました。

その後、1946年に名称を財団法人「新生資源協会」と改称し、1962年にはその事業の中心を科学者や技術者への研究助成としています。財団法人「新生資源協会」は、2011年4月1日に公益財団法人となり、2012年11月1日にその名称を「フジクラ財団」に変更しています。

地域コミュニティとのかかわり

都心に自然が息づく「フジクラ 木場千年の森」

地球の生命の豊かさを守る「生物多様性の確保」、当社グループはこの問題に取り組み、深川ギャザリアの一角にビオトープ「フジクラ 木場千年の森」を創設し、地域の皆様と共に自然と触れ合いながら、自然の生きものたちを守る活動を続けています。2012年度は、地元の小学校の自然教育活動や地元の幼稚園児の「いも掘り」体験を行ないました。また5月には初めてとなる地元の皆様にビオトープについてご紹介する「ビオトープ説明会」を開催し70人程が来場されました。



【開園の時間】
4月～9月 7:00～18:00
10月～3月 7:00～17:00

【場所】 ※入場は無料
深川ギャザリア内(江東区木場1-5-1)



タイ国の子供たちに児童書を寄贈

タイ国のグループ会社FETL(Fujikura Electronics(Thailand) Ltd.)から「タイ国でおきた洪水により日本語の児童書が消失し不足しています」の呼びかけがありました。その呼びかけに応じて、短期間にグループ会社の社員から多くの児童書の寄贈がありました。集まった児童書は、ダンボールで5箱、442冊。早速、タイ国へ送られ、7月27日、FETL社からバンコクの日本人商工会議所へ贈呈されました。



タイ国の古い小学校をリニューアル

タイ国サラブリー県にあるワットクロンヤン小学校は1935年に創立され、建物は老朽化し、教室などはリペイントが必要でしたが費用がないためそのままになっていました。タイ国のグループ会社FETLのプラチンプリ工場の「To BE Number 1」クラブの61人が休日を利用し、校舎の修繕やペンキ塗りの作業で汗をながしました。作業が終わった校舎は「新しい学校ようだ」と子供たちや先生に喜ばれました。

